



野村 裕基

のむら・ゆうき 1999年東京都生まれ。祖父・万作及び父に師事。能楽協会会員。2003年3歳の時に『靉猿』で初舞台。初舞台の稽古から本番までの姿は、NHKのドキュメンタリー番組にも取りあげられた(DVD「小さな狂言師 誕生～野村萬斎・親子三代の初舞台」収録)。'17年「三番叟」、'20年「奈須与市語」を抜く。



パリでの『三番叟』は特別な舞台でした

続いてきたという存在感が、ショックを受けている人達に「大丈夫だ」という安心感を与えられるよう、発信してきたつもりです。

野村裕基(以下、裕基)：私も狂言師にとって節目の演目となる『奈須与市語』の抜キ(初演)が2020

年の3月の予定だったのですが、夏に延期に。稽古を重ね、メンタルを鍛錬するために禁酒もしていたのですが。

萬斎：『奈須与市語』という演目は若手の狂言師にとって節目となるもので、「抜く時には禁欲

1.裕基さんの狂言師としての節目となった『奈須与市語』の抜キ(初演)。語りを存分に聞かせる演目だ。撮影／政川慎治 2.舞台に立ち、スッと手を挙げた姿が清々しい。3.稽古に入ると、緊張感がみなぎる師弟の顔に。

的に」という習慣があるわけです。初演そのものも重要ですが、舞台に向かうまでのプロセスが大事なので、延期にするかどうかは悩みましたね。ただ、時間ができたおかげで、稽古がしっかりできました。野村彩也子(以下、彩也子)：困難な時にこそ、家族の絆が深まるんだなと、今回、改めて思いました。私は昨年、大学を卒業してTBSにアナウンサーとして入社したのですが、自宅待機がずっと続いて、ひとり不安な気持ちでした。

萬斎：裕基には、狂言アプリをインストールしなくてはいけないわけで、師匠のコピーができるように、プログラミングしています。けれど彩也子の場合はアナウンサーですから、そこは違うところ。ただ、滑舌や腹式呼吸など、芯のある声を出すための方法として、狂言は役に立つだろうと。例えば、狂言には抑揚がありますが、それは日本語をうまく伝えるため。言葉に強弱をつけ速度を変えて、ど



狂言の魅力を社会に還元していきたい

ここに文意の中心があるのかを分かりやすくするのは、つまり、突き詰めると日本語教育ですね。彩也子：父の話し方は現代語でも滑舌や間合いが良くて、とても聞きやすいんです。

——萬斎さんは狂言だけでなく、

幅広く活躍されていますが、どんな気持ちで臨んでいるのですか。萬斎：私の根っこには狂言があるので、「狂言師」としか名乗りません。けれど、最近では大きく言う「職業・野村萬斎」というか、「演じる」とか「人に伝える」こと



野村 萬斎

のむら・まんさい 1966年東京都生まれ。祖父・故六世万蔵及び父・万作に師事。重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。2002年より世田谷パブリックシアター芸術監督。東京2020オリンピック・パラリンピック大会開会式・閉会式チーフ・エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター。